平成２８年度第１回　大和市文化財保護審議会　会議録

平成２８年８月１０日（水）
午前１０時～正午
大和市役所　教育委員会室

出席者等

委　員 （５名）	◎金子　皓彦、●鈴木　通大、坂本　要、田中　徳久、神崎　直美
事務局 （５名）	教育長、文化スポーツ部長、文化振興課長、市史・文化財担当係長、市史・文化財担当職員
傍聴者	なし

◎…会長　●…職務代理者

公開・非公開の状況

■公開　□非公開　□一部非公開
（非公開・一部非公開の場合はその理由）

会議次第

１．開会
２．会長、職務代理者の選出
３．議事
　（１）平成２７年度郷土民家園指定管理業務の管理運営状況の評価について
　（２）平成２８年度文化財関係事業について
４．その他
５．閉会

会議要旨

（○委員　▼事務局）

１．開会

２．会長、職務代理者の選出

金子皓彦委員を会長に、鈴木通大委員を職務代理者に選出。

３．議事

（１）平成２７年度郷土民家園指定管理業務の管理運営状況の評価について

▼事務局より、資料に沿って平成２７年度指定管理者事業報告概要及び評価（案）を

説明。

【自主事業「古民家寄席」について】
○新規事業の古民家寄席の参加者数２０名は少ないか。宣伝不足か？
▼新聞・タウン誌等で広報はしている。今後口コミで増えていけばよいが。
○落語家の知名度によって参加者数に影響が出る。この事業が定着してくれば増えるのでは。新規事業はある程度長い目で見る必要があるか。
○寄席の落語家は地元の人を依頼してはどうか。近隣の人であれば応援したい気になるのではないか。
○（有名な）落語家も１回くらいは応援も兼ねて（廉価で）出演してくれるかもしれないが、継続的には困難だろう。古民家のザシキで実施するのであれば、（人数的に集まりすぎてもまたその逆であっても）見合う人を呼ぶのは難しい。
○（事業実施時の）賑わいの状況を写真で見ることができたらよいのではないか。
▼月例報告書記載の写真を回覧。
○かつて古民家で講演をしたが、定員は１５人だった。（スペース的に）あまり呼べないのではないか。古民家寄席の定員は？
▼２０名である
○定員を充足していたのであれば問題はないか。ならば、報告書には定員も明記したほうがよい。
▼資料・報告に定員を記載する。

【地域博物館等施設の課題、県内施設の近年の動向について】
○地域博物館の課題として、人をどのように呼ぶかということがある。展示内容が変わらないと集まらない。費用をかけないと継続的に人を呼ぶことは難しい。職員の工夫にも限界がある。
○（苦情の例にあった「説明文が多くて古民家の雰囲気を壊している」という意見に対し）説明文は職員の努力の成果であり、（説明文がないと）「わからない」という人もある。この点については、ボランティアによる解説等で対応するという方法もあるが。
○民家園の中に展示施設を作らないと民家内のキャプション（説明文）が邪魔だという苦情の解決は難しい。川崎の民家園では展示棟を新設した。
○小田原は今相当費用をかけているため、入館者数も増えている。
○通常は施設の入館者数は経年とともに減少していく。箱根の湿生花園は、かつて入館者数が増加し続けていた特異な施設だったが、現在は運営に陰りが見えている。
○箱根の湿生花園は人が入っておらず、施設がやや荒れている。一方、ガラスの森美術館は２０周年だが、賑わっている。
○（湿生花園が振るわないのは）指定管理者が変わったためである。展示についてよく知っている人がいなくなってしまった。
○現場の人には現状に満足してほしくない。市民がどう応援していくか、行政がどう支援していくかということも問われる。

【自主事業「民家園ナイトミュージアム」の参加者数が少ないことについて】
○参加者数が少ない「ナイトミュージアム」は、例えば「真夏の夜の怪談」などの事業と組み合わせて実施してはどうか。
○「繭クラフトを作ろう」も参加者が少ないため、ほかのものと組み合わせたらどうか。
○他の博物館でも、夜間開館延長をどこでも実施しているが、一般的に夜間は施設が閉まっているという意識が強くなかなか浸透しない。参加者数が少なくなり、夜間開館コストと見合わない結果になる。
○夜に実施するのであるなら、「虫の音を聞く会」などのイベントと結びつけたらどうか。蛍を放すというのはどうか。昆虫が専門の学芸員はいないのか。
▼民家園にはいないが、泉の森のしらかしの家にはいるはずである。
○蛍はむやみに放してはいけない。かえって自然破壊となってしまう。
○泉の森には蛍はいないのか。
▼近年の状況は未確認である。
○ナイトミュージアムに関して（民家園敷地内の）夜間の明かりはどうなっているのか。
○敷地および泉の森は暗く、夜一般人が歩いていくのは難しい。
○どこかに集合して（民家園のみでなく）他の場所の探索と組み合わせては。
▼指定管理者の所見として、ナイトミュージアムは他事業で実施している工作・調理のようなアピールポイントが乏しかった。また、日程が地域の盆踊りと重なってしまったことを反省点としている。参加者には好評な事業だったようだ。

【自主事業「精米作業実演」について】
○参加者数が多いが「精米作業実演」などはやりたい人がいるのか。
○最近は精米ブームである。
○精米後、かまどでご飯を炊いて食べられたらよい。
○ 府中の博物館では水車でそばを挽き、出店を出してふるまっている。費用をかければできることもあるのでは。
○（郷土民家園スタッフは）少ない予算で頑張ってくれていると思う。

【三脚を使用した撮影について】
○苦情の中にあった三脚の問題（三脚で長時間撮影している人がいる）について、マナー違反の人が増えているように思う。マナー啓発パンフレット等を置いたほうがよいのではないか。（三脚などが）他の来園者の邪魔になるという意識を持ってもらうことが必要。
▼園内でも多少の掲示はしている。
○内容をかなり具体的に記述したパンフレット等を配布ほうがよい。

【総評】
○民家園の指定管理者は少ない予算の中でよく努力している。
○以上の議論を事務局側で評価案に反映していただきたい。

（２）平成２８年度文化財関係事業について

▼事務局より、資料に沿って平成２８年度文化財保護関係事業（予定）を説明。

【廻り地蔵調査について】
○廻り地蔵の調査がそのままになっているが、どうなっているか。
▼担当者に確認する。
○廻り地蔵は文化財指定をするのか。
▼指定を視野に入れつつ今後調査をすすめていく。
○横浜市歴史博物館が企画展を開催した際に、神奈川県全体の廻り地蔵の分布などを作っていたと思う。
○廻り地蔵は泉区、平塚市などにもある。

【市外見学会等の実施について】
○（文化財愛護講座について）昨年の「お城の楽しみ方」などは、市外の現地見学ツアーなどもあったらよかったと思うが。御殿場市で小田原城見学ツアーを組んだが、大盛況だった。
○かつて大和市文化財協会があった時代には見学会があったが、今はない。見学会は人を呼べる事業である。困難もたくさんあるが、市民サービスのためにも実施したほうがよい。
○ウォーキング事業は人気が高い。引地川を歩く、野鳥散策、蛍鑑賞等はどうか。
○平塚では化石や地層を見学するツアーを、相模原では市外も含めた境川を歩く事業などを実施している。
○市では市外見学会の計画等はあるのか。
▼近年は市内見学会のみ。現在、市外見学会の計画はない。
▼昨年度の「お城の楽しみ方」は、PR 不足であった。また、講演時間も少なかった。継続も視野に考えたい。この事業に限らず、PR 不足は認識している。

【事業タイトルについて】
○（講演会などは）タイトルも重要である。最近は、やわらかいタイトルにすると人が集まる。内容が具体的に分かり、オーバーな表現のものの方が好まれる。派手なものにしたほうがよい。企画展もタイトルによって入館者数に大きな差が出る。
▼近年の企画展において、タイトルやキーワードの違いが入館者数に影響を及ぼしている状況を認識できた。タイトルも含めて、来館者に興味を持ってもらえる道筋をつける必要があると考える。

【つるし雛展示について】
○つるし雛の人気が高まって、関連書籍も多数出版されている。（つるし雛を中心に据えた）その関連の企画展を実施してはどうか。
○つるし雛は酒田あたりが起源。もともとチリメン細工で天保年間からか。
○子供向けに折り紙での細工なども取り入れたらよいのではないか。高学年であればチリメン細工もできる。

○ヤマトンの折り紙細工などもいい。
▼つるし雛の展示はつる舞・ふるさと館でも実施している。内容は素晴らしいが、集客に直結していない点が課題である。

【外部専門家の活用について】
○委員の著書「幕末大名婦人の知的好奇心」なども参考にしたらどうか。物事のルーツ、（企画の）アイデアがたくさん書いてある。
○審議会委員をはじめ、外部専門家の研究成果等を積極的に活用してはどうか。

４．その他

▼次回会議は平成２９年２月頃開催予定。郷土民家園指定管理者より事業報告などを行う予定。

５．閉会